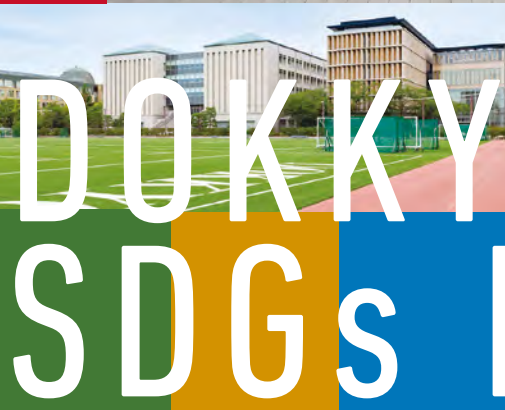


獨協大学

SDGs報告書 2025

DOKKYO UNIVERSITY
SDGs REPORT 2025



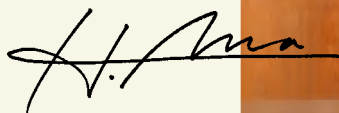
DOKKYO UNIVERSITY

SDGs REPORT 2025

PRESIDENT'S MESSAGE

学長メッセージ

大学構成員のひとりひとりが、
社会課題解決の担い手に。
地域とともにSDGs活動に取り組みます。



獨協大学 学長 | 前沢 浩子



国際連合が持続可能な開発のために2030年までに達成すべき目標として17の目標を定めたのは2015年です。10年を経て、日本社会でもSDGsという言葉は広くその重要性を認識され、官庁、学校、企業でさまざまな取り組みが推進されてきました。

獨協大学でも2021年3月、埼玉県内の大学として初めて「埼玉県SDGs パートナー」への登録を行ったことを機に、SDGsの達成に向けた教育・研究をさらに推進してきました。学内ではSDGs推進連絡会が中心となり、年度ごとの方針を掲げ、着実な成果の実現を目指しています。

「埼玉県SDGsパートナー」で宣言した目標の達成のために、本学では、学生・教員・職員そして父母の会が一体となってSDGs活動に取り組んでいます。今年度、注目を集めた活動の例としては、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」の採択最終年（5年目）の節目として、本学や福島県田村市でイベントを実施しました。また、福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」では、福島県の特産品を用いて調理したものをEarth Week Dokkyoで販売するなど、地域課題に着目した活動を行いました。

また、父母の会からは、入学式にて新入生全員に対しオリジナル・ウォーターボトルを配付いただきました。猛暑や乾燥から学生の健康を守るのと同時に、ペットボトルの消費によるマイクロプラスチックの海中流出を減らすことができます。エコロジーや資源保全、日々の生活から地球規模の課題を意識化する機会としています。

2025年度のもうひとつの大きな成果は、草加市との連携の強化です。草加市とのSDGsに関する連携については、これまでも2007年に「草加市・獨協大学協働宣言」および「草加市・獨協大学基本協定書」に調印し、2023年にはその「基本協定書」にSDGsの文言を盛り込み、持続可能なまちづくりのため連携を強化することを確認してきました。また、2024年10月には「そうかSDGsパートナー」に登録されました。

2025年度は、そうかSDGsパートナーズミーティングへ参加し、草加市に関わるSDGsに取り組んでいる企業や団体と活発に交流しました。これをきっかけとして、明治安田生命保険相互会社が実施しているフードドライブ活動に協力し、フードパントリー事業者へ防災食品を寄付しました。地域活性化を目指した「そうか産学連携事業」の成果発表会、5者連携による「WELL FES」も、住みやすい街づくりのため大学と地域が連携した事業です。開学以来、草加市とともに歩んできた本学にとって、地域との結びつきは欠かせないものです。今後さらに緊密な連携をはかってSDGs活動に取り組んでまいります。

本学は創立以来、普遍的な原理に照らして自らの行動を決定できる「実践的な独立の人格」の育成を目標に掲げています。そしてSDGsの「誰一人取り残さない」というスローガンは、まさに普遍性を持つ原理です。その原理に基づいた教育と研究を行う場として、獨協大学は今後も、積極的にSDGs活動に取り組んでいきます。

PICKUP

まちづくり協定 5者代表による意見交換会に出席

4月22日、本学にて草加市、獨協大学、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）、東武鉄道、トヨタホームの5者代表者による、獨協大学前<草加松原>駅西側地域におけるまちづくりに関する意見交換会が行われました。

当日は5者の代表が協定締結後の活動の成果や課題を共有するとともに、今後の活動の方向性について意見交換を行い、引き続き5

者が連携協力してまちづくりを推進することを確認しました。



獨協大学前<草加松原>WELL FES WINTER2025を開催

12月20日、松原団地記念公園にて、「WELL FES 2025 WINTER」を開催しました。本イベントは、多世代が繋がり、学び、誰もが活き活きと暮らせる未来を育む「WELL BIND」をコンセプトとした5者まちづくり協定の一環として実施されたものです。当日は約200名が参加し、本学雄飛ホールでランタン製作のワークショップを楽しみました。17時からの打ち上げセレモニーでは、色とりどりのLEDスカイランタンが舞い上がり、幻想的な景色に、多くの観客が魅了されました。



▶ 獨協大学SDGs行動指針

獨協大学は、学則第1条「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」の理念の下、社会の発展に寄与するSDGsの達成を担う人材を育成します。

1. 本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と認識の共有

獨協大学は、学内構成員ひとりひとりがSDGsに関する認識を共有し、持続可能な社会の発展について主体的に考える環境を提供してSDGs啓発活動に取り組みます。

2. 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

獨協大学は、「獨協大学人権宣言」に基づき、「誰一人取り残さない」社会実現の一翼を担うべく、人権が擁護され、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、人として成長できる場を創造します。また、多様な人材が輝きをもって活躍できるよう「ダイバーシティ(多様性) & インクルージョン(包摂性)の推進」に取り組みます。

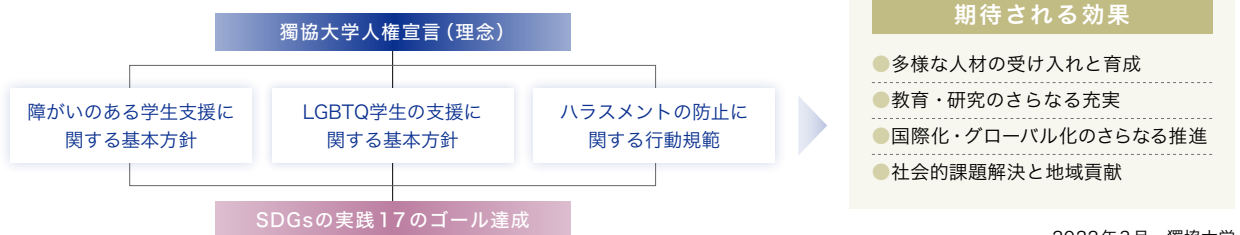
3. 地球規模の課題への取り組み

獨協大学は、温室効果ガス削減、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、社会の平和と公正を含むSDGsの達成に、関係機関とパートナーシップを形成して取り組みます。

4. 地域の課題への取り組み

獨協大学は、地域社会が抱える課題の解決に向けて、自治体、民間セクター、地域住民、NPO/NGO等と連携して取り組みます。

【本学におけるSDGs推進のイメージと期待される効果】



2022年3月 獨協大学

▶ 獨協大学人権宣言

獨協大学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を実現するために、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを宣言します。

1. 獨協大学は、国や地域の法令、建学の理念、学則などの規範を遵守します。
2. 獨協大学は、すべての人間は生まれながらにして平等であるとの認識に立ち、人権を擁護し、多様性を尊重します。学生、教職員、その他関係者は、互いの尊厳を守ります。
3. 獨協大学は、国籍、性別、宗教、年齢、障がいの有無、性的指向・性自認などによる偏見や差別を許しません。人間の尊厳を損なう行為を決して放置せず、健全な教育研究環境と職場環境の整備を加速させます。
4. 獨協大学は、学生、教職員、その他関係者が持つ多様性が創造的な教育研究成果を生み出す体制を整備します。
5. 獨協大学は、地域との連携を深めながら、誰もが互いに人格と個性を認め合い、支え合う共生社会の構築に貢献します。

2020年8月15日 獨協大学

▶ 獨協大学環境宣言

私たちは、地域環境や地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、すべての教育、研究活動を通じて、人々の健康増進と環境保全に寄与することを目標に掲げ、以下のことに積極的に取り組みます。

- ◎ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます
- ◎ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します
- ◎ モノや資源を大切に使うとともに、ゴミの減量化やリサイクルを推進します

2008年6月 獨協大学

大重ゼミ

外国語学部
大重 光太郎教授

外国語学部
ドイツ語学科 4年
〇〇さん
(左から2人目)

外国語学部
ドイツ語学科 4年
〇〇さん
(中央)



松枝ゼミ

経済学部
経営学科 3年
〇〇さん
(右から2人目)

経済学部
国際環境経済学科 2年
〇〇さん
(右)

CROSS TALK・クロストーク

5年間継続してきた「復興知」事業と、フェアトレードや子どもの学習支援 自ら現場に入って「SDGs」を実践したからこそその気づき・成長があった1年間

ゼミごとに個性豊かなSDGs活動を実践している獨協大生たち。今回は5年間にわたって福島県田村市での「復興知」事業に取り組んだ松枝ゼミと、「フェアトレード」や「子どもの学習支援」にチャレンジした大重ゼミのメンバーに集まっていただきました。現場に臨んだ経験から得た気づきや、将来へのビジョンを伺います。

SDGsは知って当然の世代、いざ実践の場へ

〇〇：私たちくらいの世代は、中学・高校時代から「SDGs」という言葉を知っていますし、「SDGs教育」も受けていますよね。



〇〇：そうですね。ただ漠然とした知識があるだけで、本当に何かアクションすることになったのは、大学生になってからです。アルバイト先に松枝ゼミの先輩がいて「環境教育とか興味ない？」と誘われたのがきっかけでした。



〇〇：私は以前受けた「気候変動ミステリーワークショップ」から「SDGs」に興味をもちました。カードゲーム感覚で温暖化やそれに伴う諸問題の解決法を考えられておもしろかったです。

〇〇：私は東日本大震災で大きな被害のあった岩手県出身で、復興の歩みとともに育ってきたので、「SDGs」については関心が高いほうだと思います。

実践でなければ得られない学びがあった

〇〇：今期、私は「フェアトレード」をテーマに選びましたが、実は昨年度もこのテーマを扱ったグループがありました。でもフェアトレードの認知度の低さや購入者の少なさといった反省点があがったため、そこをどう改善し、より成果を上げられるようにするかを考えるとところからスタートしました。



▲雄飛祭でのフェアトレード商品販売

〇〇：今年はなかなかの盛況だったようですね。

〇〇：はい。ブースを出す雄飛祭などの客層も考えて、チョコレートの種類を増やし、またドライフルーツをマンゴーに限定して販売しました。Instagramや当日宣伝用に看板を作成してPRした甲斐もあって好評でしたが、今度は早くなくなりすぎて販売機会を失うという新たな反省点が生まれました。もし来年もやってくれるグループがいたら、ノウハウと一緒に課題を引継いでほしいです。

〇〇：大重ゼミでは今期は4つのテーマが候補に挙がりましたが、

私は「子どもの貧困」を課題にしました。具体的には、塾に行けない子どもの学習支援を行うNPOへの講師登録や、オープンキャンパスの案内などを通じて、子どもを取り巻く現実を見つめました。

〇〇：グループごとの取り組みのノウハウや計画も、自分たちで一から考えたんですか？

〇〇：はい。やってみると、やみくもに動くだけでなくマーケティングや広報の視点も必要だったり、いろいろな気づきがありました。

〇〇：私は、元々子どもの学習支援NPOでアルバイトをしていたので、そのNPOと連携したんです。大きく複雑なテーマですから、実績のある組織と協力することも大事なと改めて思いました。

継続活動で得た経験と信頼を、これからも

〇〇：松枝ゼミでは、2021年から取り組んできた「復興知」事業の継続・発展ということで、小学生向けに使用している資料のブラッシュアップや、地元の方との交流活動を主に行いました。小学校低学年になると、もう東日本大震災の記憶がない子もいますし、僕らの活動がともに復興の意義やSDGsを考えるきっかけになる役割も果たしているんだと感じます。



▲福島県での現地活動

〇〇：私は今年初めて田村市に行きましたが、地元の方が「お、獨協さんか」とか「子どもだけじゃなく、シニア向けにも何かやってよ」と話しかけてくれたりして、継続的に活動していることが認知され、期待が寄せられているんだなあと感動しました。



▲中学生向け資料「SDGsって何？」

〇〇：先輩方から知見が継承されて、獨協大学の認知度が最初から高いというのは強みですね。

〇〇：私たちの取り組みも、来年以降も続いてくれるといいんですが……。ゼミ活動終了後もNPOに所属してくれている後輩がいるから、しっかり頼んでおきます！

〇〇：ゼミごとのマインドや経験値が、ずっと継承されていったらいいですね。SDGsは大きなテーマだけで17もあるわけで、たとえ今は他人事のように思えても、いずれ何らかのテーマが自分に関わってくる可能性は大いにあります。個人の課題解決意識が、世界を変えるうねりにつながる。

その第一歩を、本学でのゼミ活動から踏み出してもらえたら嬉しいです。



2025 活動 スケジュール

□大重ゼミ

4月～5月 テーマ設定、グループ分け	11月 雄飛祭参加
6月 グループごとの作業開始	1月末 プロジェクト最終報告書提出
7月末 研究計画書完成	3月 最終報告会
10月 調査活動の本格化	

□松枝ゼミ

4月～5月 訪問先の学校との調整	9月～10月 環境教育の出前授業
6月 参加者募集とチーム編成	11月 報告とまとめ
7月～8月 企画と資料作成	



より良い社会の実現を目指して。キャンパスを超え、社会・地域・団体と連携しています

■ そうかSDGsパートナーズミーティングへの参加と、SDGsイベントへの会場提供を実施

2024年10月に本学が「そうかSDGsパートナー」(第1号)に登録されたことを受けて、2025年から始まった「そうかSDGsパートナーズミーティング」に本学総合企画課SDGs担当者が参加しています。7月1日(第2回会合)では、獨協大学の取り組みについて発表しました。同じく、「そうかSDGsパートナー」(第72号)に登録された経済学部・高安ゼミからは、草加市民から寄贈されたランドセルをアフガニスタンの子どもたちに贈る活動に取り組んでいるランドセラーチームと、草加市の地場産業である皮革職人とコラボして商品を販売しているUNISOLE(皮革製品)チームが活動発表しま

した。7月から10月にかけては、草加市が主催する市内在住の子どもたち向けSDGs連続講座「まちのヒーローアカデミー」(高安教授監修)を本学内で開催しました。「まちのヒーローアカデミー」では、ランドセラーチームとUNISOLEチームに加えて、「わけあうしあわせ、つながる埼玉」をコンセプトに埼玉県内の企業のCSRを紹介するPock∞t(ポケット)チームの学生たちが子どもたちにSDGsの取り組みを紹介しました。また、グループワークでも作業を補助するなど、本活動を通じて子どもたちの成長の一役を担いました。11月にはNHKさいたま放送局、草加市共催

「NHKあおきいるたんけんパークinそうか」を本学コミュニティスクエアで開催しました。企画の1つとして高安ゼミが地元のそうか革職人会と協同出展し、たくさんの来場者に向けて皮革産業のアピールに貢献しました。草加市にある大学として、これからも引き続き、草加市と連携してSDGs活動に取り組んでいきます。



■ 本学の防災備蓄品を明治安田生命保険相互会社が実施するフードドライブ事業に寄贈

12月4日、本学から県内のフードパントリー事業者に防災食品1,600セットを寄贈する贈呈式が学内で行われました。本学ではフードロス削減のため、保管している防災食品を定期的に学生や教職員に配布し、防災意識の向上に役立てています。今年は学内配布だけでなく、新たな活用方法としてフードドライブ活動^(※)への寄付を行いました。

贈呈式には本学から前沢学長をはじめとする教職員が参加し、フードパントリー事業者の代表者3名のほか、本学とSDGsパートナーシップを結んでいる草加市からの来賓、主催者である明治安田生命保険相互会社の代表が出席しました。寄付した防災食品は、埼玉県東部のフードパントリー事業者等12団体へ配布されました。



※このフードドライブ活動は埼玉県との協働事業として明治安田生命保険相互会社が行っています。

■ 外国語学部・大重ゼミがコンタクトレンズケースの回収を実施

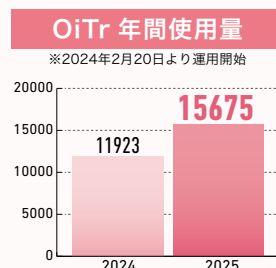
2024年9月、大重ゼミ・海洋プラスチック班は「海がない埼玉県で何ができるか、できることから始めよう!」というスローガンを掲げ、コンタクトレンズケースの回収を実施しています。この活動はHOYA株式会社 アイケアカンパニーの「アイシティ ecoプロジェクト」に賛同したもので、開始から2025年12月末ま

で約30kgを回収しました。回収後のリサイクル業務には障がいのある方も携わり、リサイクル業者への販売による収益はアイバンク協会に寄付されます。指導教員である大重ドイツ語学科教授は「知らなければ日々何気なく使い捨てられていくものをきっかけに、社会とのつながりを考えてほしい」と、取り組みを応援しています。



■ 生理用品無料提供ディスペンサー「OiTr」の年間使用量が前年比1.3倍に増加

学生からの提案により、2024年2月から導入している生理用品無料提供ディスペンサー「OiTr(オイテル)」の2025年の使用量が、前年比1.3倍となりました。また、1日の最大使用量が136枚を数えるなど、学内に存在が浸透しています。今後も、生理に伴う心理的・経済的負担を軽減することで、SDGsが掲げる貧困や不平等の解消、健康と福祉の向上を目指していきます。





復興の現場で、キャンパスで。継続的な活動で、SDGsの種をまいた2つの取り組み

■ 持続可能な社会を目指し、社会貢献を実践する場を与えてくれた「復興知」事業

獨協大学は、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構による「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に採択され、2021年度から2025年度までの5年間、福島県田村市にて「外国語教育、環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業」に取り組んできました。

「復興知」事業は、2011年に発生した東日本大震災と原子力災害から福島県浜通り地域

等が復興するための新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトに沿った取り組みで、本学は人口減少・高齢化が進む田村市の課題に向き合いながら、脱炭素社会や再生可能エネルギー100%を目指す「持続可能なまちづくり」を目標に事業の実施や政策提案を行ってきました。

全学部学科から参加した学生スタッフは、この活動を通して子どもたちをはじめとする

住民と交流し、様々な気づきを得てきました。また住民の方々も、学生との交流を歓迎し、情報や知識を得ることで田村市への認識を新たにしている機会となっています。



5年間の活動

① 外国語教育

小学5・6年生を対象に、英語で田村市を紹介する「子ども未来講座」を開催するなど、教室とは異なる英語体験を提供しました。また、小学校教員向けの英語科サポートブック作成や、観光情報サイトおよび田村市特産のエゴマ油をPRするリーフレットの多言語化を行い、関西・大阪万博で配布しました。



② 環境教育

小中高生向けに、正課授業の中で学生が授業を実施。市報『たむら市政だより』にコラム「ちょこっと、エコライフ」を連載、読者と交流する「ライブ」イベントも実施。また、座学と作業を組み合わせた断熱ワークショップ、キエーロ・ワークショップも開催しました。



③ 地域づくり

船引高校1年生の地域課題探究活動に、学生がファシリテーターとして協力。農家などの地域担い手を紹介するパンフレットも作成。また、学生が脱炭素社会実現に向け、草加市と田村市との広域連携を活用した「地球課題を解決できる仕組み」を提案しました。



■ 獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo 2025"レポート

本学では毎年夏・冬の2回、国際環境経済学科・環境共生研究所主催で「獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo"」を開催しています。獨協大学として「地球を考える1週間」を設定し、持続可能な地球社会の実現を目指す企画です。学生、教職員の意識を高めてキャンパスライフを見直し、持続可能な社会を創ることを目的としています。また、社会課題やその解決に向けて自分にできることを考え、行動に移す機会となっています。Earth Week Dokkyo 実行委員会が参加企画を募集し、大学の構成員であり趣旨にあえば、どのような立場の方でも参加できるイベントです。今年度は夏冬とも

行われた大竹ゼミ耻風班による「南会津町風地区物産展」、「西棟省エネ・創エネ設備見学ツアー」、公開「省エネ推進会議」、「竹あかりワークショップ」、「草加の野菜を食べよう！～ピザ窯で作るピッツァ～」などのほか、夏には「映画で考える・感じる ジェンダーとセクシュアリティー」、「伝右川再生会議」、「伝右川カヌー体験会」などが行われました。冬には富山県魚津市のおばあちゃんの手作り草餅販売、福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の石川町中谷地区チームによるさつまいも商品販売といった食のイベントをはじめ、「復興知」事業の成果報告を行った講演・

討論会「フクシマの未来を考える」や、冤罪に関する問題提起、ゲーム形式で性の多様性を考える「LGBTQ人生ゲーム」、古本のリサイクルと読書の楽しみをつなぐ「表紙が見えない古本屋」など、身近にある社会問題に気づき、考えるきっかけを与える企画が実施されました。冬のイベントを締め括る企画として実行委員会主催で「Egg Candle Night」が行われました。学生たちが学食から集めた廃油に凝固剤を加えて卵の殻に流し込み、思い思いに描いたイラストで飾られたエッグキャンドルは、材料集めから制作まで学生が担当。点灯式ではゆらめく灯が幻想的な冬景色で参加者を魅了しました。



Voice - 01

実行委員

草加の農家さんからご提供いただいた旬の野菜を使ったピザを焼いて提供し、輸送コストや環境負荷を減らすために地産地消を呼びかけています。ピザ窯イベントには長蛇の列ができる人気イベントですが、皆さんには地元の旬の野菜のおいしさに気づいて欲しいですね。



Voice - 02

実行委員会代表

使わなくなった廃油、家庭ごみの卵の殻を利用しエッグキャンドルを実施しました。当日は学生だけでなく、先生や職員の方も来てくださり環境について考え話し合うとても良い機会となりました。

地球環境のために何ができるか。脱炭素や省エネの努力を、全学をあげて

■ 「デコ活」を宣言

2025年8月1日、本学は「デコ活」を宣言しました。「デコ活」とは、2050年カーボンニュートラルおよび2030年度削減目標の実現に向けて、環境省が国民・消費者の行動変容、ライフスタイル転換を強力に後押しするため展開している活動のことで、二酸化炭素(CO₂)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)

と、環境に良いエコ(Eco)を含む"デコ"と活動・生活を組み合わせた言葉です。例えば、食品ロスをなくす、移動手段に徒歩や自転車を利用するのも、「デコ活」のひとつです。今回の宣言を機に、教職員および学生の省エネへのさらなる理解と意識向上を図り、SDGs活動を推進していきます。

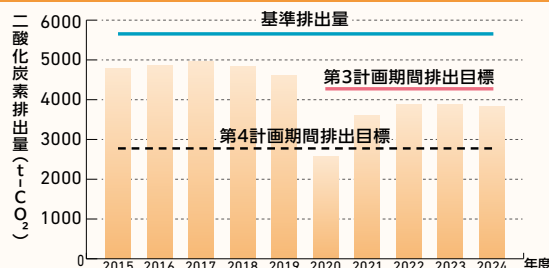


■ 2030年の50%削減を目指して、二酸化炭素(CO₂)排出量削減活動に取り組んでいます

本学は、2007年の天野貞祐記念館竣工以降、新築建物に省エネ設備を積極的に導入してきました。太陽光発電は現在、一般家庭120軒以上に相当する設備容量を有しています。また、「Earth Week Dokkyo」における「全学ライトダウンプロジェクト」が大きな効果を上げたことを契機に、これを大学全体の省エネ施策へと発展してきました。併せて、照明のLED化などの設備改修も進めた結果、契約電力を2,300kWから1,700kWへ削減できました。新型コロナウイルス感染症による活動制限の影響もありましたが、これらの取り組みにより、埼玉県地球温暖化対策推進条例の第3削減計画期間(2020～2024年度)における二酸化炭素排出削減目標(22%削減)を達成しました。一方、第4削減計画期間(2025～2029年度)では、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて削減目標が50%に引き上げられました。この50%削減目標は、コロナ禍における遠隔授業の実施時(2020年度)に達成できた数値であり、現時点での基準排出量に対する削減率(約30%)から比較すると非常に厳しい目標です。

こうした状況を踏まえ、現行の省エネ施策だけでは目標達成が困難であると判断し、本年度よりグリーン電力の導入を開始しました。ただし、これまでの省エネ努力によりグリーン電力の購入量を最小限に抑え、経済性にも配慮した形で第4削減計画期間の目標達成を目指しています。現在、これらの取り組みにより、50%削減に向け順調に進捗していますが、引き続き学生、教職員に協力を求めています。

獨協大学の二酸化炭素排出目標と排出量の年間推移



■ キャンパス内マイクログリッドで、余剰電力を無駄なく活用

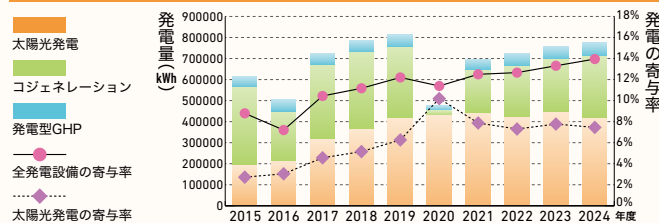
本学は、2007年の天野貞祐記念館竣工以降、環境配慮型の施設整備を推進してきました。その代表的な取り組みが、キャンパス内マイクログリッドです。マイクログリッドとは、分散型電源を組み込んだ小規模な電力ネットワークであり、本学では、太陽光発電、発電機能付きガスヒートポンプ(GHP)およびコジェネレーションシステムなどを組み合わせ、電力の効率的利用を図っています。

休業日には電力消費量が減少して太陽光発電の電力が余剰となる場合でも、マイクログリッドが自動的に余剰電力を他の棟へ振り向け、効率的な電力の運用を図っています。また、分散型電源の活用によりピーク電力の抑制が可能となり、契約電力の低減、さらには、夏季の電力逼迫の緩和にも寄与しています。

2024年度の実績では、キャンパス内の分散型電源による発電が全電力

消費の約14%を賄い、そのうち自然エネルギーである太陽光発電の寄与率は約7.5%に達しました。これらの取り組みは二酸化炭素排出量の削減にも寄与しており、今後、運用の最適化を通じて、さらなる環境負荷低減を図っていきます。

年度毎の発電量

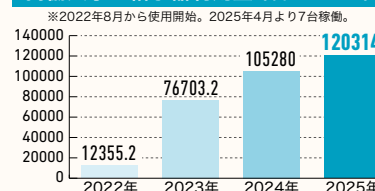


■ 学内の給水器が7台に増加。給水量も年々増加

2022年8月から導入した給水器は、2025年4月に天野貞祐記念館1階ガーデンテラスに1台追加し、計7台になりました(うち2台はコミュニティスクエア)。2025年の給水量は前年比114%の12万314リットルとなり、500mlのペットボトルに換算すると、約24万本を削減したことになります。学生、教職員の利用をさらに推進していきます。



獨協大学の給水器利用量(単位: リットル)

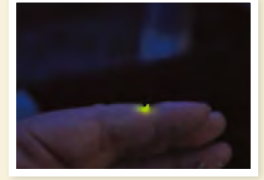


2025年に展開した、おもなSDGs活動

1	1月10日 「復興知」事業学生スタッフが福島県田村市役所にて市長・副市長に脱炭素社会を目指す持続可能な仕組みについて政策提案
	1月11日 本学学生が草加市小中学生ICTプレコンにて、ミニレクチャーおよび日本語・英語プレゼンデモを実施
	1月27日～30日 外国語学部・羽山 恵准教授とゼミの学生が「After School Program－放課後英語学習講座」を開催
2	2月3日～3月31日 春休み中の中学生（草加市在住）・高校生・大学予備校生への図書館開放（夏休み期間も実施）
	2月12日 経済学部・高安ゼミが『NHK首都圏ネットワーク』に出演
	2月15日 経済学部・山下ゼミが子ども支援イベント「希望の芽プロジェクト」を開催（10月18日も実施）
3	2月17日 経済学部・高安ゼミが『NHK首都圏ネットワーク』に草加市内より出演
	3月13日～18日 経済学部・高安ゼミ生の活動がNHKの2つの番組で紹介
	3月15日 経済学部・米山ゼミが「第3回 高校生から学ぶ ふくしまの今とこれから」に参加し、高校生と意見交換
	3月15日 オープンカレッジ特別講座「アジア発展途上国におよぶ中国パワー－現地に見るその実態－」を開催
	A 3月16日 JTB地球いきいきプロジェクト 獨協大学米山ゼミ×草加市廃棄物資源課×JTB「親子で体験SDGs!! 生ごみが消える不思議なプランター!? ～キエーロ・ワークショップ～」を開催
4	3月19日 第1回「そうかSDGsパートナーズ」ミーティングに参加（7月第2回、11月第3回にも参加）
	4月22日 獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域におけるまちづくり協定 5者代表者による意見交換会を開催
	4月28日 法学部の授業で山川百合子氏（草加市長）が「だれもが幸せなまち草加」と題し講演
6	6月8日 第22回国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」を開催
	6月23日～28日 獨協大学環境週間「Earth Week Dokkyo 2025～Summer～」を開催
	6月24日 「第11回伝右川再生会議2025」を開催
7	6月27日 防犯講習会を開催
	7月2日 校友会主催で普通救命、熱中症予防の講習会を開催
	7月5日 2025年度「子ども大学そうか」入学式と第1回講義を実施
7	B 7月15日 経済学部・藤山ゼミ主催で、草加高校との高大連携行事を開催
	7月18日 経済学部・大竹ゼミ ホテル観賞会を開催
	7月19日 オープンカレッジ特別講座「なぜポピュリズムは定着したのか－ヨーロッパとアメリカの半世紀－」を開催
8	8月1日 「アコ活」を宣言
	8月22日 本学で「そうか生きもの集合調査～街なかの自然を見つけよう～」を実施
	10月2日 本学学生が草加市花栗南小学校5年生の「ふるさと草加学習」研究授業に協力（他に10月3回、11月2回協力）
10	10月10日 本学学生が「大学生と県議会議員との意見交換会」に参加
	10月10日 草加かがやき特別支援学校による手作りパンの販売
	10月20日 教職員対象メンタルヘルス研修「心がふわっと軽くなるセルフケア」を開催
	10月25日 2025年度「子ども大学そうか」第5回講義と修了式を実施
	10月29日 地域総合研究所公開講演会「地方公務員アワード受賞者に聞く！自治体広報/シティプロモーション成功のカギ」を開催
11	C 11月3日 本学学生と草加市内の企業がコラボレーションした新商品を草加商工会議所まつりで販売
	11月5日 地域総合研究所シンポジウム「子育て世代を呼び込むためのシティプロモーション」を開催
	11月8日～9日 経済学部・高安ゼミが草加市立松原児童青少年交流センターミラトンにてランドセル回収を実施
	11月12日 第9回図書館講演会「文学と装丁の楽しい関係－装丁と装画の醍醐味－」を開催
	11月18日 「復興知」事業学生スタッフ・チーム米山が「地方創生☆政策アイデアコンテスト2025」において、東北経済産業局長賞を受賞
11	D 11月24日 本学コミュニティスクエアにて、NHKさいたま放送局主催「NHKあおきいるたんけんパークinそうか」を開催
	11月28日 経済学部・A.モルタ専任講師が環境経済・政策学会のSEEPS（2025年度）の奨励賞を受賞
	E 12月1日～6日 獨協大学環境週間「Earth Week Dokkyo 2025～Winter～」を開催
12	12月2日 第11回講演・討論会「フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」を開催
	12月4日 フードパントリー事業者へ防災食品を寄贈
	12月14日 「復興知」事業学生スタッフとOB・OGが、「復興知」事業の最後のイベント「ちょこっと、エコライフ～ライブ～」を開催
	12月20日 5者協働事業「獨協大学前＜草加松原＞WELL FES 2025 WINTER」を開催
	12月23日 獨協大学・草加市・草加商工会議所が推進する「そうか産学連携事業」の成果発表会を本学学生が実施
随時	外国語学部・大重ゼミがコンタクトレンズケースの回収を実施



A キエーロ・ワークショップの様子



B ホテル観賞会



C 共同開発したパン



D 高安ゼミ レザークラフト体験



E 昭和村 そばガレット販売（上）
中谷地区さつまいも加工販売（下）

